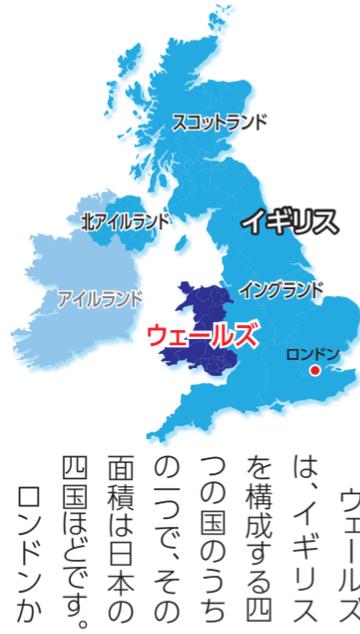


ラグビーW杯出場チームがやってくる!

ウェールズってどんなところ?



ウェールズは、イギリスを構成する四つの国のうちの1つで、その面積は日本の四国ほどです。ロンドンから列車で約2時間の位置にあるウェールズの首都・カーディフ市は、かつて石炭の積み出し港として栄え、その後は鉱業・重工業都市として発展しました。このような歴史的背景が本市と似ており、カーディフ大学と北九州市立大学が協定を結んで20年以上にわたって学生の交換留学を行なっているなど、本市との交流が深い国でもあります。

ウェールズ代表チームはどんなチーム?

ウェールズ代表チームは、伝統的にFW(フォワード)・前列でスクラムを担当する選手)の屈強さと、素早く展開するプレススタイルが特徴です。ウェールズの国旗にあしらわれている「レッドドラゴン」の愛称で広く国民に親しまれています。



▲ウェールズ国旗

ラグビー応援ミニ知識

<ステップ2> ルール編

あれれ? ボールが後ろにパスされてるよ!

ラグビーでは、ボールを前方に投げたり、パスしたりすることは反則なんだ。

得点を入れるためにボールを前方に進めたい! と思っても、ボールは真横か後ろにしか投げられないんだよ。パスを受け損ねたりして、ボールを前方に落とすことも反則だよ。



ラグビー応援ミニ知識

<ステップ3> 得点編

得点はどうやったら入る?

ラグビーの得点方法といえば、「トライ」や「キック」をイメージする人が多いかな?

トライは、相手陣地奥のインゴールエリアにボールをタッチすることで得点になるよ。得点数はトライすると5点、トライ後のキックがクロスバーより上のゴールポストの間を通ると、さらに2点が加算されるんだよ。



観戦だけじゃもったいない! ウェールズチームと一緒にラグビーを体験!

ウェールズ代表を10年間務め、代表チームの主将としての出場試合数が33という歴代2位の記録を持つライアン・ジョーンズさんなど、ウェールズラグビー協会のメンバーが今年8月に本市を訪れ、「ラグビーウェールズ交流プログラム」を実施しました。ミクニワールドスタジアム北九州(小倉駅北側)で開かれたラグビー教室には、子どもから大人まで約600人が参加し、ラグビーの本場であるウェールズ流の本格的な指導を体験しました。



参加者に聞いてみました

帆柱ヤングラガーズ 大坂間梨蘭さん(小学2年生)



「有名な選手だった人が目の前でラグビーを教えてくれたのでうれしかったです。話す言葉は違うけれど、これからどんな練習をしたらいいかわかりました。私もラグビー女子セvensの日本代表チームに入って、世界的に有名な選手になりたいです。」

ラグビーW杯では、今日教えてくれた先生たちの国・ウェールズを試合会場で応援したいです!



前ラグビー女子ウェールズ代表主将で、現在はウェールズラグビー史上初プロラグビーチームの女性監督のレイチェル・テイラーさん

「ラグビーは言葉の壁を超えることができる『友情のスポーツ』だから、言葉が通じなくても笑顔で交流することができました。私がラグビーを教えたことがきっかけで、もっと多くの子どもたち、特に女の子もラグビーをするようになればうれしいですね!」

経験者も初心者もラグビーにトライ!

今回のラグビーウェールズ交流プログラムでは、ラグビーボールを触ったことのない人から、社会人チームでプレーする人まで、それぞれのレベルに応じたラグビー教室が行われました。また、実際にプレーする人のため



だけでなく、次世代を育成する指導者のための研修も行われました。このように、高いレベルで実践的な指導を受けられることや、交流を積み重ねることが本市のスポーツ文化をつくり上げるレガシー(遺産)となっていく予定です。

参加者に聞いてみました

九州共立大学ラグビーフットボール部コーチ 池田光さん



「ゲームをしながら楽しくウォームアップするトレーニングまで、ウェールズ流の指導方法を実演を交えて教えてもらったので勉強になりました。次回は、チームづくりについても聞いてみたいですね!」

来年3月と9月には、ウェールズラグビー協会のメンバーが再び来北し、今回のような交流プログラムを行います。みんなで世界レベルのラグビーを体験し、ラグビーW杯を北九州から盛り上げましょう。

ラグビー応援ミニ知識

<ステップ4> W杯観戦編

W杯でウェールズ代表を応援するには?

「プールD」というグループに入ったウェールズ代表は、リーグ戦の4試合中2試合を九州の会場で戦うよ。みんなで応援するぞ!

◎来年10月9日(水) ウェールズ 対 フィジー 大分スポーツ公園総合競技場(大分市)

◎来年10月13日(日) ウェールズ 対 ウルグアイ 熊本県民総合運動公園陸上競技場(熊本市)

